書き抜き読書ノート 459　　2009 年 12 月 31 日

司馬遼太郎著「坂の上の雲 第二巻」文芸春秋 1969 年 11 月 5 日刊を読む

正岡子規－愛と執念の人

１．子規はよほど執念ぶかくうまれついているらしい。かれの俳句もそうであった。

「良句もできるが駄句もできる。しかし、できた駄句は捨てずに書きとめておかねばならない。理由はない。ちょうどお金を溜める人が一厘(りん)や五厘のお金をむだにせずにこれを溜めておくのと同じである。そういう一厘五厘をむだにする者が決して金持ちになれないように自分のつくった句を粗末にして書きとめておかぬひとはとてもとてものこと、一流の作者にはなれない。」

２．人間に対する執着はつまり愛である。

「人の師となり親分になるうえにぜひ欠くことのできぬ一要素は、弟子なり、子分なりに対する執着であることを考えずにはいられぬのである。たとえばそれは母の子を愛するようなものである」どういう放蕩息子に対しても母親というのはそれを捨てずに密着していく。

P12 ～ 13

[コメント]

NHK TV でこれから 3 年間 12 月は日曜日の夜に大河ドラマで「坂の上の雲」をやるようだ。また、来年 1 月から 11 月までの大河ドラマは「坂本龍馬」だという。

明治維新から明治の時代を生き抜き日本の歴史をつくった人々の生き方を現代の日本人が学ぶにはまたとないチャンス。大いに学びたい。

－ 2009 年 12 月 31 日　林明夫記－